式辞

春の日差しもうらかな今日の佳き日に、保護者の皆様のご列席のもと、広島市立広島中等教育学校第九回入学式を挙げていただけますことは、教職員一同大きな喜びであります。

ただいま、入学を許可いたしました百十九名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。本校を代表して心から歓迎申し上げます。

さて、本日、晴れて広島中等教育学校の生徒となった皆さんに、私から三点ほど、お願いしたいことがあります。

一つ目は、皆さんは厳しい入学者選抜を見事に突破して入学が認められました。これは皆さんの努力の成果であることは勿論ですが、保護者の方や先生方などの支えがあったからこそです。また、涙をのんだ友人がいることも考え、「本校に自分で決意して入学した」という今日の気持ちを忘れないで欲しいということです。

皆さんが担っていくこれからの社会は、新型コロナウイルスや国際紛争に象徴されるように、世界規模の多くの課題の解決が求められるとともに、グローバル化や「デジタル革新」が加速的に進み、予測困難な変化の激しい時代になると言われています。

本校は「高い志を持ち、品格を備えたグローバル人材の育成」を教育目標に掲げており、皆さんには、こうした世界規模の課題解決に貢献し、変化の激しい社会を生き抜くだけでなく、より良い未来の社会を創る担い手となってもらいたいと願っています。そして、その実現のために、六年間の完全一貫教育であることを活かした本校独自の「立志プロジェクト」と呼ばれる教育活動や、その活動を様々な場面で支えてくれる教職員など、皆さんが夢を育み、それを志に高め実現していくための環境を整えています。

この素晴らしい環境をどれだけ生かすことができるかは、皆さん次第です。今日の気持ちを忘れずに授業や学校行事、部活動などに自分から積極的に取り組むことができれば、学ぶ楽しさや、できる喜びを実感することができます。さらにやる気が高まる好循環の中で自分の力を大きく伸ばすことができます。また、多少上手くいかないことがあっても、逃げたり人のせいにしてしたりすることなく自分の力で乗り越え、充実した学校生活を送ることができます。

皆さんには、是非、この恵まれた環境を活用し大きく成長してもらいたいと願っています。

二つ目は、失敗を恐れず挑戦する勇気を持って欲しいということです。挑戦の結果を自分の「できた、できなかった」で評価する必要はありません。皆さんのこれからの長い人生においては、上手くいくことよりも、いかないことの方が多く、その時、どう乗り越えるか、どう立ち直るかが大切だからです。人前で恥をかいたり、失敗したりする挫折経験がないまま社会に出ると、そうした状況に直面したとき、現実を受け入れられず、心が折れてしまい、途中で投げ出したり、前に進めなくなることがあります。ですから、学校で

失敗する練習や負ける練習をしておくことも必要なのです。

学校はこうしたことを学ぶ場でもありますから、六年間の学校生活の中で、失敗しても何度でも立ち上がり挑戦し続ける力を身に付けてほしいと思っています。

三つ目は、この入学を機に、人間関係の幅を広げてもらいたいということです。趣味や考え方の合う人とは、すぐに仲良くなれると思いますが、考え方の異なる相手ともお互いに尊重しあえる人間関係を築けるようになって欲しいのです。自分とは合わないと初めから遠ざけるのではなく、相手がなぜそう考えるのか、なぜ自分の考えが受け入れてもらえないのかなど、相手の言葉や行動だけで判断せず、その理由を考えるよう努力し、お互いの考え方の違いを認め尊重し支え合える友人関係を築いて欲しいと願っています。

環境が大きく変わる時は、不安もあるでしょうが自分自身でも気づいていない可能性を引き出し飛躍できるチャンスでもあります。本校への入学をそのチャンスと捉え、新しい自分や仲間づくりに挑戦してください。

終わりになりますが、保護者の皆様、今、目の前にこうして立派に成長されたお子様の晴れ姿をご覧になり、喜びも一入（ひとしお）のことと存じます。心よりお慶び申し上げます。私たち教職員は保護者の皆様と共に手を携えてお子様が逞しく成長できるよう取り組んでまいりますので、本校の教育活動に対し、ご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新入生の皆さんの健やかな成長と、高い志の実現のために、教職員が一丸となって取り組むことをお誓い申し上げ、式辞といたします。

令和四年四月六日

広島市立広島中等教育学校

校長 横山 尚司